

第67回北海道小学校長会教育研究

空知・岩見沢大会

大会要項



令和6年9月13日(金)
14日(土)

ようこそ空知へ

夕張市



花の百名山、秀峰夕張岳。高山植物群と蛇紋岩メランジュ帯は、国の天然記念物に指定されています。

三笠市



三笠高生徒が調理・接客を担当、料理やスイーツを一般客に提供し、腕を磨く「高校生レストラン」です。

由仁町



ゆにガーデンは、15のテーマガーデンに囲まれた日本最大級の英国風庭園です。32,000株のコキアは圧巻。

栗山町



町施設オオムラサキ館では国蝶オオムラサキの新亜種「クリヤマエンシス」の飼育展示を行っています。

滝川市



たきかわスカイパークは公園と飛行場の機能を有する日本初の本格的航空公園で、体験搭乗ができます。

美唄市



閉校した小学校と体育館の姿を残して改修。広大な野外彫刻公園「安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄」。

南幌町



R5年春開所の室内遊戯施設「はれっば」。有料・無料の遊戯エリア、大手珈琲店、無料Wi-Fi完備の人気施設。

長沼町



MAOI SALUDの天空テラス「タ空」。ワイナリー・ぶどう畑から、北海道の大地と夕日を存分に楽しめます。

月形町



月形樺戸博物館は、「樺戸集治監」が北海道開拓に寄与した歴史を実物資料で分かりやすく展示しています。

砂川市



市を貫く国道12号は、知る人ぞ知る「すながわスイーツロード」。名店多数で大人気。ぜひご賞味ください。

目 次

開 催 要 項	2
挨	
北海道小学校長会長	末 原 恵 蔵 5
大会実行委員会委員長	出 口 哲 也 6
全 体 会	
講 話	北海道教育委員会教育長 中 島 俊 明 様 ... 9
当面の諸課題	全国連合小学校長会長 植 村 洋 司 様 ... 10
講 演	元横浜創英中学・高等学校長 工 藤 勇 一 様 ... 11
大会主題・研究課題 趣旨説明	
北海道小学校長会研修部長	西 田 浩 人 12
分 科 会	
領域Ⅰ	第1分科会 経営ビジョン 15
	第2分科会 組織・運営 21
	第3分科会 評価・改善 27
領域Ⅱ	第4分科会 知性・創造性 33
	第5分科会 豊かな人間性 39
	第6分科会 健やかな体 45
領域Ⅲ	第7分科会 研究・研修 51
領域Ⅳ	第9分科会 学 校 安 全 57
領域Ⅴ	第11分科会 社会形成能力 63
	第12分科会 自立と共生 69
	第13分科会 社会との連携・協働 75
来 賓 名 簿	83
大 会 役 員 名 簿	84
大会実行委員役員名簿	85
大会参加者数一覧表	86
北海道小学校長会研究大会のあゆみ	87



開催要項

大会主題

**自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る
日本人の育成を目指す小学校教育の推進**

大会副主題

**ふるさとに誇りと愛着をもち
ともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進**

- 1 主 催 北海道小学校校長会
- 2 主 管 空知校長会
- 3 後 援 北海道教育委員会・岩見沢市・岩見沢市教育委員会・
空知管内市町教育委員会教育長会・
全国連合小学校長会・公益社団法人日本教育会
- 4 期 日 令和6年9月13日(金)・14日(土)
- 5 開 催 地 岩見沢市
- 6 会 場 <全体会>
・岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」
<分科会会場>
・岩見沢市民会館・文化センター「まなみーる」…………… 第1、2、3、13分科会
・岩見沢平安閣 …………… 第4、5、6分科会
・市民交流施設 であえーる岩見沢 …………… 第7分科会
・ホテルサンプラザ …………… 第9、11、12分科会

7 日 程

12木	9:00		11:00		12:00		13:00		15:00		17:00	
			正副会長 研修会		昼食		運営 委員会		理事 研修会		分科会運営者 研修会	

13金	9:00	9:25	10:15	11:00	11:50	12:00	13:10		16:30	
	受付	開会式	道教委 講話	当面の 諸課題		連絡・移動・昼食	分科会			

14土	9:00	9:25	10:00		11:40	12:00		
	受付	全体会	記念講演		閉会式	大会主題・研究課題 趣旨説明		

- 8 講 話 北海道教育委員会教育長 中 島 俊 明 様
- 9 当面の諸課題 全国連合小学校長会長 植 村 洋 司 様
- 10 記念講演 講 師 元 横浜創英中学・高等学校長 工 藤 勇 一 様
演 題 「社会の変化とこれからの学校教育～最上位目標は主体性と当事者意識～」

分科会運営者一覧

研究領域	分科会	研究課題	趣旨説明者 研究発表者	運営責任者 会場責任者	司会者 (大会開催地) (事務局幹事)	記録者 (当日記録) (集録担当)	会場
I 学校経営	1 経営ビジョン	創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定と校長の在り方	猿払村・浜鬼志別小 畑 慎 司 中頓別町・中頓別小 宮 崎 哲 也	函館市・大森浜小 高 間 猛 滝川市・滝川第一小 奥 山 直 人	夕張市・ゆうばり小 有 村 宏 紀 深川市・深川小 高 原 直 樹	滝川市・滝川第一小 奥 山 直 人 赤平市・赤平小 菅 原 一 毅	岩見沢市民会館・文化センター 「まなみーる」展示室（1階）
	2 組織運営	学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと校長の在り方	帯広市・帯広小 野 中 利 晃 帯広市・広陽小 千 頭 洋	別海町・別海中央小 根 本 涉 滝川市・滝川第二小 坪 江 潤	奈井江町・奈井江小 立 山 正 和 札幌市・新琴似北小 下 山 弘 美	滝川市・滝川第二小 岩見沢市・美園小 尾 見 秀 樹	岩見沢市民会館・文化センター 「まなみーる」音楽室（2階）
	3 評価改善	学校教育の充実を図るための評価・改善の推進と校長の在り方	札幌市・手稲東小 白 崎 正 札幌市・藤の沢小 安 藤 九 一	上富良野町・上富良野小 豊 田 央 滝川市・江部乙小 壽 崎 正 人	新十津川町・新十津川小 鈴木 義 樹 札幌市・北の沢小 西 村 貴 史	滝川市・江部乙小 壽 崎 正 人 三笠市・岡山小 一ノ瀬 健太郎	岩見沢市民会館・文化センター 「まなみーる」多目的室1・2（1階）
II 教育課程	4 知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方	旭川市・朝日小 高 野 拓 実 旭川市・恵和小 藤 本 友 紀	千歳市・桜木小 玉 腰 武 砂川市・砂川小 木 内 一 樹	砂川市・北光小 中 野 大 吾 旭川市・神楽岡小 佐 藤 美 鶴	砂川市・砂川小 木 内 一 樹 北竜町・真竜小 鎌 田 定 男	岩見沢平安閣 コハクA（4階）
	5 豊かな人間性	豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方	伊達市・伊達小 近 藤 大 作 室蘭市・天神小 平 石 崇 広	長沼町・長沼小 八 柳 圭 深川市・多度志小 木 村 一 典	長沼町・長沼小 八 柳 圭 札幌市・前田北小 高 梨 美 奈 子	深川市・多度志小 木 村 一 典 栗山町・角田小 鈴 木 祐 子	岩見沢平安閣 コハクB（4階）
	6 健やかな体	健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方	小樽市・銭函小 篠 崎 大 作 小樽市・山の手小 伏 間 公 洋	幕別町・幕別小 森 浩 嘉 砂川市・中央小 鳥 谷 部 賢 太	三笠市・三笠小 中 嶋 利 啓 小樽市・塩谷小 渡 辺 琢 史	砂川市・中央小 鳥 谷 部 賢 太 栗山町・羅立小 土 谷 直 樹	岩見沢平安閣 パールA（3階）
III 指導・育成	7 研究・研修	学校の教育力を向上させる研究・研修の推進と校長の在り方	余市町・黒川小 半 田 健 一 仁木町・仁木小 鹿 毛 貴 之	留萌市・留萌小 秋 葉 良 之 深川市・北新小 船 越 一 郎	秩父別町・秩父別小 湊 秀 樹 古平町・古平小 丸 岡 哲 也	深川市・北新小 船 越 一 郎 月形町・月形小 島 恵 司	市民交流施設 であえーる （地下1階）
	8 リーダー育成	これからの学校運営を担うリーダーの育成と校長の在り方	令和6年度は開催しません				
IV 危機管理	9 学校安全	命を守る安全教育・防災教育の推進と校長の在り方	乙部町・乙部小 笠 松 靖 史 奥尻町・青苗小 黒 川 貴 功	白糠町・庶路学園 大 西 展 史 深川市・一巳小 千 石 正 巳	芦別市・芦別小 三 浦 新 一 郎 札幌市・駒岡小 岩 村 鋭 介	深川市・一巳小 千 石 正 巳 岩見沢市・栗沢小 五十嵐 吏 加	ホテルサンプラザ 白鳥・雉子の間（3階）
	10 危機対応	様々な危機への対応、未然防止の体制づくりと校長の在り方	令和6年度は開催しません				
V 教育課題	11 社会形成能力	社会形成能力を育む教育活動の推進と校長の在り方	平取町・平取小 木 田 理 博 平取町・二風谷小 遠 山 昌 志	雨竜町・雨竜小 三 好 考 央 深川市・音江小 江 幡 佳 代	上砂川町・中央小 檜 直 希 札幌市・みどり小 里 館 大	深川市・音江小 江 幡 佳 代 美瑛市・中央小 島 田 路 也	ホテルサンプラザ 孔雀の間（3階）
	12 自立と共生	自立と共生の実現に向けた教育活動の推進と校長の在り方	北見市・美山小 天 野 昌 明 北見市・三輪小 秋 山 康 則	札幌市・新発寒小 佐々木 一 好 深川市・納内小 大 脇 明 子	歌志内市・歌志内学園 富 樫 孝 行 札幌市・新琴似西小 八 田 博 之	深川市・納内小 大 脇 明 子 芦別市・上芦別小 松 田 安 弘	ホテルサンプラザ 月の間（2階）
	13 社会との連携・協働	家庭や地域等との連携・協働、学校段階等間の接続・連携の推進と校長の在り方	釧路市・釧路小 加 藤 誠 一 釧路市・大楽毛小 富 田 直 子	幕別町・明倫小 小野田 年 克 滝川市・西小 山 中 晴 吾	砂川市・空知太小 佐 藤 浩 之 江別市・江別第二小 田 中 亮 一	滝川市・西小 山 中 晴 吾 沼田町・沼田小 吉 田 純 一	岩見沢市民会館・文化センター 「まなみーる」練習室B（3階）



式 次 第

開 会 式

司会進行：大会実行委員会事務局長 小山田 学

- | | | |
|-----------|--------------|-----------|
| 1 開会のことば | 大 会 副 会 長 | 大 谷 昌 史 |
| 2 国 歌 斉 唱 | | |
| 3 挨 拶 | 大 会 会 長 | 末 原 恵 蔵 |
| | 大会実行委員会委員長 | 出 口 哲 也 |
| 4 祝 辞 | 北 海 道 知 事 | 鈴 木 直 道 様 |
| | 北海道教育委員会教育長 | 中 島 俊 明 様 |
| | 岩 見 沢 市 長 | 松 野 哲 様 |
| 5 祝辞・祝電披露 | 大会実行委員会事務局次長 | 山 本 あさ子 |
| 6 来 賓 紹 介 | 大会実行委員会副委員長 | 小 玉 剛 |
| 7 閉式のことば | 大 会 副 会 長 | 中 田 恭太郎 |

閉 会 式

司会進行：大会実行委員会事務局長 小山田 学

- | | | |
|-----------|--------------|---------|
| 1 閉式のことば | 大 会 副 会 長 | 村 井 亨 |
| 2 挨 拶 | 大 会 会 長 | 末 原 恵 蔵 |
| | 大会実行委員会委員長 | 出 口 哲 也 |
| 3 次期開催地挨拶 | 根室大会準備委員会委員長 | 根 本 渉 |
| 4 閉会のことば | 大 会 副 会 長 | 千 葉 一 博 |



「明日からの学校経営の改善に 資する大会となることを願って」

～第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会に寄せて～

北海道小学校長会

会長 末原 恵 蔵

「自ら未来を拓きともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を大会主題に、そして、「ふるさとに誇りと愛着をもちともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」を副主題に掲げ、岩見沢市において第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会が開催されますことは、大変意義深いことと感じております。岩見沢市での開催は、平成21年第52回大会以来15年ぶりとなります。空知校長会の皆様方には、長期にわたり万全の協力体制を構築いただき、全道各地から仲間が参集する姿を思い描きながら準備を進めていただきました。心より感謝申し上げます。

北海道の中西部に位置する岩見沢市は、石狩川流域の肥沃な地に恵まれ、水稻を中心とした農業が基幹産業で、小麦やたまねぎ、花卉などの生産が盛んな道内有数の穀倉地帯であるとともに、空知地方における行政・産業・教育文化などの中心地です。この岩見沢市で、私どもの研究大会が開催できますことを大変うれしく思っております。

さて、学校で学ぶ子どもたちが社会の中心となって活躍する近い将来は、これまでの日本社会や制度の延長上では対応できない段階に至ることが想定されます。人口減少や少子化、グローバル化や多極化、地球環境問題、そしてコロナ禍によって一層重要性が高まったデジタルトランスフォーメーション(DX)などがこれまで以上に進行すると予想されています。正に「VUCAの時代」と称されるように、先行きが不透明で将来の予測が困難な社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力とは何か、という問いが学校教育に投げかけられています。学校現場に目を向けると、いじめ・不登校等の生徒指導上の課題への対応をはじめ、誰一人取り残されず全ての児童の可能性を引き出す多様な教育ニーズへの対応や特別支援教育の充実、GIGAスクール構想を踏まえた授業改善や教育DXの推進、学校における働き方改革の推進、教職員定数の改善や処遇改善、災害等での教訓を生かした危機管理対応や学校安全教育の推進など、複雑かつ多様な課題が山積しております。校長は、これらの教育課題や教育改革の推進に先頭に立って取り組んでいかなければなりません。

このような中、全道小学校長の約半数が参加する本大会において、各校の教育の現状を語り合い、課題解決に向けて英知を結集し、北海道教育の質の向上を期して、明日からの学校経営に生きる協議がなされることを願っています。その大きな役割を果たすのが分科会です。道小では、これまで分科会の充実を図るため工夫を重ねてきました。過去、コロナ禍により分科会の実施が叶わなかった大会もありましたが、誌上交流や動画配信等の方法により、学びを止めない取組を進めてまいりました。一昨年の旭川大会ではハイブリッド形式で開催、そして、昨年の渡島・北斗大会では4年ぶりに会合形式で開催することができました。互いの息づかいを感じながら意見交換を行うことの大切さや校長同士がつながることの価値について多くの評価をいただき、全道の校長のリーダーシップや学校経営力の向上に結び付く意義ある大会となりました。本大会においても、大会を通じて一つでも多くの成果を全道の校長の皆様方と共有していきたいと考えております。

結びになりましたが、本大会の開催に向けて中心となって準備を進めていただいた、出口哲也大会実行委員会委員長をはじめ、主管の空知校長会の皆様方に改めて心から感謝申し上げます。また、本大会のために、提言や研究発表の準備をしていただいた皆様、さらに北海道教育委員会及び空知教育局、岩見沢市教育委員会、全国連合小学校長会並びに関係諸団体の皆様方に厚く御礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



子どもが煌めく 学校教育の充実を目指して

第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会
実行委員会委員長 出口 哲也

岩見沢市は、西部に石狩川流域低地である平野が広がり、東部には夕張山地を形成する低山性の山々が連なる北海道の中西部に位置するまちです。北海道有数の稲作地帯として発展し、水稻、小麦、玉ねぎなどが基幹作物となっています。また、市内にはバラ園、ワイナリー、遊園地、果樹園、歴史遺産など多くの地域資源があり、田園風景、広大な農地等、非常に価値の高い資源が点在しています。こうした地域資源や、「百餅まつり」「彩花まつり」をはじめスポーツや音楽イベントが開催されること、地理的にも札幌から旭川や富良野といった有名観光地の間にあり、高速道路や鉄道により短時間での往来が可能となっていることなどから、交流人口が増加しています。令和5年には開庁140年・市制施行80周年という節目の年を迎えたところです。このような岩見沢市で、第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会を開催し、「未来を見据え、持続可能な活動と学びの充実に向けて」という道小スローガンの実現に向け、北海道各地から小学校長が集い実践交流や情報共有・発信を行えることは大変意義深いことであり、開催地としても大変うれしく思っております。

第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会は、全国連合小学校長会の研究主題「自ら未来を拓きともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を受け、副主題に「ふるさとに誇りと愛着をもちともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」を掲げ開催いたします。昨年度、4年ぶりに参集型での研究大会となった渡島・北斗大会の大きな成果・財産を継承し、フルスペックの研究大会を軌道に乗せ、次年度の根室大会、そして、令和8年度の全連小教育研究協議会北海道大会へとつなげることも重要な使命と捉えております。北海道の小学校長が一堂に会し、全国連合小学校長会 植村洋司会長による当面の諸課題に係る情報のご提供、講話や記念講演、そして、顔の見える関係性のもとで行う分科会での研究協議等での対話の深まりが大いに期待されることです。

本研究大会は「時代の潮流に即応した研究課題の究明」や「各地区研究の特色を生かした研究成果の交流」を通して、北海道小学校の校長が信頼に応え活力ある学校経営を推進するとともに、学校経営の最高責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明する貴重な機会であり、まさに北海道小学校教育の根幹をなす活動でもあります。改めて、本研究大会を開催する機会を与えていただいたことに重責を感じるとともに、この貴重な機会に際し実行委員を担う空知校長会会員の職能向上にも、大いにつなげるものと感謝いたします。是非、本研究大会で多くの情報を共有し合い、人とのつながりを実感して、今後の学校経営につなげられることを強く願っております。

空知校長会全会員で本研究大会の運営について誠心誠意準備を進めて参りましたが、行き届かぬ点が多々あるかと存じます。是非、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本研究大会の開催に向けて、ご指導ご助言を賜りました北海道教育委員会をはじめ、開催地であります岩見沢市及び岩見沢市教育委員会、全国連合小学校長会、北海道小学校長会、並びに関係諸団体の皆様に厚くお礼申し上げ、挨拶いたします。



全体会・分科会



芦別市 旧三井芦別鉄道炭山橋橋梁

講 話

北海道教育委員会 教育長 中 島 俊 明 様



当面の諸課題

全国連合小学校長会長 植 村 洋 司 様

記念講演

講師 元横浜創英中学・高等学校長 工 藤 勇 一 様

演題 「社会の変化とこれからの学校教育～最上位目標は主体性と当事者意識～」



大会主題・研究課題 趣旨説明

北海道小学校長会

研修部長 西田 浩人

全国連合小学校長会は、真摯に研究と実践を積み重ね、我が国の小学校教育の充実・発展と教育諸条件の整備に多くの成果を収めてきた。その成果を踏まえ令和2年度より研究主題を「自ら未来を拓きともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」とし、その実現を目指し取組を進めている。

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字を取って「VUCA」の時代とも言われている。また、進化した人工知能(AI)は我々の生活に深く浸透し、Society 5.0の社会では、様々な情報を適切に収集し分析して社会の発展に活用することが求められている。人としての生き方が今以上に問われる時代を目前に控え、人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下、子どもの生命・人権や貧困など、教育環境にも関わる多岐にわたる課題が顕在化している。さらに環境問題や新たな感染症の拡大、国際情勢の不安定化のような地球規模の様々な課題が存在する中、教育の果たす役割はますます重要となっている。

こうした時代を生き抜き、子どもたちが、自ら豊かな人生や社会を拓いていくためには、社会の変化や直面する問題に主体的に向き合い関わり合っていく力と同時に、他者と協働しながら問題を解決していくという能力が重要である。そして、子どもたちが、育ったふるさとの自然・歴史・文化を愛し、身近な地域を含めた社会に誇りと愛着をもち、地域社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をよりよく変えていこうという思いをもつことは、グローバル化する社会的な課題を乗り越え未来を切り拓いていくための大きな原動力になると考える。また、教育をめぐる現状・課題を踏まえ、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」は、今後我が国が目指すべき社会及び個人の在り様として重要な概念であり、これらの相互循環的な実現に向けた取組が進められるよう方策を講じていくことが必要である。

学校には、子どもたち一人一人のよさと可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成することが求められている。家庭・地域との連携・協働により、人との関わりを通して、ふるさとの自然や文化から学ぶ教

育を推進するとともに、学んだことを社会の発展へと役立てていく力を育成しなければならない。そのために我々校長は、学習指導要領の理念を十分に理解し、「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメントを進め、幅広い視野で教育活動を創造していかなければならない。

一方、ふるさと北海道に目を向けると、北の大地の冬は、雪に覆われ、長く厳しい寒さに包まれる。開拓時代、この自然環境は人々に多くの困難をもたらした。しかし、今では豊かな自然の中で育つ乳牛から搾られた牛乳や、豊富な水と肥沃な大地で育った米は、全国ブランドとしてその地位を築いている。農産物は安全性の高さはもとより、加工食品としても個性と新たな魅力が引き出され、全国の人気の的となっている。また、雪は観光やスポーツとしての大きな魅力となり、雪冷房としても活用され、生活を豊かにしている。先人たちの知恵と工夫と挑戦が、この厳しい自然環境を克服し、現代に恩恵をもたらしているのである。

副主題には、豊かではあるが厳しい自然を乗り越え、人との絆を大切にしながら、脈々と人の営みを紡いできた先人たちから、地域に根ざした文化や歴史などを学び、さらにそこから、自ら未来を切り拓き、自分の夢や目標の実現を目指す人材を育みたいという思いがある。

そのために、自立した個人が個性・能力を生かし、相手の価値を尊重し、多様な人々との協働を通じ新たな価値を創造していくことができる柔軟な社会の実現が求められる。こうした新しい社会の形成に向けてたくましく挑戦する子どもを育てるためには、人と人との絆を強め、支え合う共生の意識や夢と希望に満ちた活気溢れるふるさとづくりに積極的に貢献しようとする意識など、持続可能な社会の創り手としての意識を醸成することが必要である。また、環境・資源・エネルギー問題などに関するグローバルな視点を持ち、多様な他者と協働して、地域の環境・経済、少子化・人口減少、地域格差などの身近な課題についての解決策を考えようとする資質が求められる。

さらに、一人一人の個性と人と人との絆を大切にしながら、自然災害や感染症などからの復興・再生に粘り強く取り組むことができるたくましさや育むことが大切となってくる。

こうした教育課題の解決や社会状況を改善していくには、子ども一人一人の能力を伸ばし、来るべき社会の担い手として必要とされる基本的な資質・能力を育む学校経営を推進していくことが必要となる。

以上のことから、第67回北海道小学校長会教育研究空知・岩見沢大会は、これまでの研究の成果と課題を踏まえ、大会主題の実現と追究を目指すため、副主題を「ふるさとに誇りと愛着をもちともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」と設定し、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明しようとするものである。

第1分科会「経営ビジョン」

研究課題は、「創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定と校長の在り方」である。校長は、これからの時代に求められる資質・能力について、学校と家庭・地域が共通理解して学校教育を推進できるようにするとともに、未来を見据えた学校経営ビジョンを明確に示し、活力ある学校運営を行い、学校改善に向けて絶えず検証して一層の充実を図っていくことが大切である。

分科会においては、校長がリーダーシップを発揮しながら力強く学校経営を行っていくために、未来を見据えた創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定と校長の在り方について、具体的方策と成果を明らかにする。

第2分科会「組織・運営」

研究課題は、「学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと校長の在り方」である。校長には、学校教育目標の実現を目指し、しなやかなリーダーシップを発揮することが求められる。校長が示す経営ビジョンの実現のためには、教職員一人一人に、共通確認すべき学校課題を自分ごととして捉えさせ、課題解決に向けてベクトルを揃えるとともに、全教職員に学校経営参画意識をもたせることが必要となる。

分科会においては、校長の示す学校経営ビジョンの実現を図るための活力ある組織づくり及び、組織を積極的に経営していくための具体的方策と成果を明らかにする。

第3分科会「評価・改善」

研究課題は、「学校教育の充実を図るための評価・改善の推進と校長の在り方」である。校長は、変化する時代の潮流や近未来的な課題と教育の役割を踏まえ、経営方針を明確にして、教育活動を展開する必要がある。そして、児童がよりよい教育活動等を享受できるよう、絶えずそ

の評価と改善を進めていかなければならない。

分科会においては、教育を巡る状況と子どもの未来をしっかりと見据えた学校経営の在り方について考え、学校評価と人事評価をツールとした組織マネジメントの改善等を通して、学校における教育の改革を着実に推し進め、学校教育の充実を図るための具体的方策と成果を明らかにする。

第4分科会「知性・創造性」

研究課題は、「知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方」である。校長は、子どもたちや学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目標を明確に示して地域と連携したよりよい学校教育を目指していかなければならない。そして、その目標の実現に必要な教育内容等の教科横断的な視点での組み立て、実施状況の評価と改善、必要な人的・物的体制の確保などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指したカリキュラム・マネジメントの確立を図っていくことが大切である。

分科会においては、校長のリーダーシップの下、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、新しい社会を切り拓くための知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの具体的方策と成果を明らかにする。

第5分科会「豊かな人間性」

研究課題は、「豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方」である。学校には、豊かな人間性と未来を切り拓く力を育む教育活動を展開していくことが求められている。その基盤となるのが、道徳教育であり、人権教育である。道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うものである。また、人権教育は、人間尊重の精神の涵養を目的とする教育活動である。

分科会においては、道徳教育や人権教育など、心の教育に関わる教育実践を推進するとともに、家庭や地域等と連携・協働した取組を実現し、人間性豊かな日本人を育成するためのカリキュラム・マネジメントの具体的方策と成果を明らかにする。

第6分科会「健やかな体」

研究課題は、「健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進と校長の在り方」である。学校教育においては、



子どもの心身の調和的発達を促し、充実した人生を送ることができるよう、生涯にわたって主体的かつ積極的にスポーツに親しむ習慣や資質・能力を育成する必要がある。また、健康の保持増進に必要な知識、習慣を身に付けさせることを一層重視していかなければならない。

子どもたちが生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現し、健康で安全な生活を営む実践力を育む教育活動を家庭や地域と密接に連携・協働しながら推進していくためのカリキュラム・マネジメントについて、その具体的方策と成果を明らかにする

第7分科会「研究・研修」

研究課題は、「学校の教育力を向上させる研究・研修の推進と校長の在り方」である。校長は、教職員一人一人の特性や力量を見極め、個に応じた課題とその具体的な解決への展望をもたせるとともに、教職員の資質・能力、「チームとしての学校」への参画意識等を高める研究・研修を進めていく必要がある。

本分科会では、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、学校経営への参画意識をもたせ、学校の教育力向上を目指す研究・研修体制の確立と、その推進について、具体的方策と成果を明らかにする。

第9分科会「学校安全」

研究課題は、「命を守る安全教育・防災教育の推進と校長の在り方」である。校長は、教職員に学校安全に関する資質・能力の向上を図るとともに、各教科・領域等を通じて安全教育・防災教育を組織的・計画的に推進し、子どもの命を守るための諸課題に適切に対応していかなければならない。また、安全で安心な社会づくりの担い手となる子どもの育成に向け、安全教育や安全管理を円滑に進めるための校内体制の構築のみならず、家庭や地域・関係機関との一層の連携に努める必要がある。

本分科会では、子どもたちの安全・安心を確保し、家庭や地域・関係機関と連携し対応する体制づくりや、命を守る安全教育・防災教育を推進するための具体的方策と成果を明らかにする。

第11分科会「社会形成能力」

研究課題は、「社会形成能力を育む教育活動の推進と校長の在り方」である。学校においては、子どもたちに、社会が直面する問題に正面から向き合おうとする強い意志を培い、社会を構成する一員として多様な人々と協働しながらその解決に主体的に取り組もうとする態度を育むこと

が求められている。加えて、開かれた学校として地域コミュニティの核となり、社会とどう関わり、どのように貢献しているかを考えた学校づくりを進めていくことも求められている。

分科会においては、「社会に開かれた教育課程」の編成に向け、校長のリーダーシップの下、将来の社会を形成する役割を担う子どもたちに、各教科等で身に付けた知識や技能等を基に、よりよい社会の形成に向け、主体性をもって社会に参画し、課題を解決する力や態度を養うための具体的方策と成果を明らかにする。

第12分科会「自立と共生」

研究課題は、「自立と共生の実現に向けた教育活動の推進と校長の在り方」である。学校においては、障がいの有無に関わらず誰もが自立し互いに尊重し合える「共生社会」を築くために、子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する必要がある。このような視点に立って、子ども一人一人の教育的ニーズを把握するとともに能力を高め、生活や学習上の困難を改善、又は克服できるよう特別支援教育を発展・充実させていくこと、そして、子どもたちの自己肯定感を高め、「自立する力」と「共生」の態度を育み養っていくことが大変重要である。

分科会においては、このような「自立と共生」の視点に立った社会づくりにおける特別支援教育の役割について共通認識に立ち、校長のリーダーシップの下、子どもの自立を図るための特別支援教育や多様な人々と共生し協働する資質・能力を育む教育を推進するための具体的方策と成果を明らかにする。

第13分科会「社会との連携・協働」

研究課題は、「家庭や地域等との連携・協働、学校段階等間の接続・連携の推進と校長の在り方」である。校長は、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、家庭や地域の人々とともに子どもを育てていくという視点に立ち、地域とともにある学校づくりや、学校段階等間のより円滑な接続・連携、そしてそれらに伴う教育環境の整備等を推進していく必要がある。

分科会においては、校長のリーダーシップの下、子ども一人一人の将来を見据え、家庭や地域等との連携・協働や学校段階等間の円滑な接続・連携を推進するための具体的方策と成果を明らかにする。

※令和6年度は第8分科会、第10分科会を実施いたしません。